

南無阿弥陀仏は
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
<http://saitokuji.tobihiro.jp/>
発行人 脇阪 義幸
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



(清水寺)

慣れる

親元を離れて八年以上になる。毎年、母の日と父の日には感謝の気持ちを込めて、ささやかだが贈り物をしている。恥ずかしながら、実家にいたときに感謝の意を表した記憶がない。

当初は何をすれば喜んでくれるだろうか、あれこれ悩んでいたのを思い出す。今でも感謝の気持ちは変わらないが、何か儀式化してきて、いつの間にか「したい」から「これでいいか」という、形だけのお祝いに変わってきているように感じる。それは両親の還暦祝いに旅行を計画していたときに、自分はどういう思いで祝おうとしているのかが、気になったからである。

先師の仰せに、「神にも、なれては、手ですべきことを足でするぞ」とある。仕事面でも生活面でも、慣れるということは非常に大事なことである。起床時間や就寝時間など、私たちの生活そのものが習慣化されているといっても過言ではないだろう。

しかしその反面、慣れることは物事それ自体の本当の意味が忘れられ、形式だけが大事にされがちである。初めはいかに親への感謝を表そうかと試行錯誤していたが、いつの間にか体裁ばかりに執らわれ、感謝するとはどういうことなのかを問わなくなっていた。

親に感謝するとは、ただ贈り物をすれば済むような儀式的なものではないはずである。はからずも両親を縁としてこの世に生を受けた。そのいのちを自分は、果たして精一杯生きているだろうか。賜ったいのちに、向き合っていく生活が本当の意味での感謝ではないだろうか。形式化できないいのちを、私たちはいただいているのである。

(蓮井 邦宗 記)

記

- 一、場所 西徳寺 本堂
 一、日時 7月30日(日) 午後2時
 一、次第 2時 勤行(お慶びのおつとめ)
 2時20分 式典(挨拶・感謝状・記念品贈呈)
 2時40分 記念法話

「南無阿弥陀仏を掲げて390年」
 最高顧問 大谷義博 師

『天災・人災をくぐって立ち上がって護持されてきた御堂
 どれだけの人々の精神的支えになってきているのか
 計り知れない尊さが感じられる』

- 3時20分 休憩(お供物・飲物・冷菓を
 ご用意致しております。)
 3時40分 祝賀イベント
 オリッシーダンス(東インド古典舞踊)

オリッシーとは・・・東インドを発祥の地とし、紀元前2世紀
 頃から寺院で奉納舞として踊られてきた舞。「生きた彫刻」と
 も呼ばれている。

4時15分 終了

- 一、ご懇志 ご遠慮申し上げます。 以 上

尚、ご参詣の方は、お手数ながら準備の都合上、同封のハ
 ガキにて必ず7月15日までに返信ください。ご不参の方
 は、ご返信は不要です。



落慶法要・ オリッシーダンス紹介

広大なインドの東部で古くから踊り継
 がれてきた古典舞踊、オリッシー。インド
 だけでなく、世界でもっとも古い歴史を持
 つ舞踊の一つであるといえるこの踊りの起源は、なんと紀元前2世紀にまで
 さかのぼるといわれています。



神への奉納舞として踊られてきたオリッシーは、
 今もなお鮮やかに踊り継がれ、現在ではインド国
 内にとどまらず、世界中でその芸術性が高く評価
 されています。

オリッシーは、寺院の美しい彫刻像達が動き出
 したようだ、という意味で、「生きた彫刻」とも呼ば
 れています。流れるようで優雅な女性的な動きと、
 シャープで男性的な力強さを併せ持つこの踊りの
 魅力は、これからも人々の心をとらえて離さないで
 しょう。

西徳寺保全工事 進捗状況のご報告

長らくご迷惑をおかけしておりましたが、第一
 会館外壁工事が完了し、足場を撤去致しました。
 寺務所ならびに来賓室の工事も完了し、今回の保
 全工事はほぼ完成を迎えることになりました。皆
 様にはご理解とご協力をいただきまして、誠にあ
 りがとうございました。



会議室



来賓室



寺務所



外壁

「西徳寺保全工事」 らくせいけいさんほうよう 落成慶讃法要 ご案内

このたび役員をはじめ門信徒の皆様方また有
 縁の方々のご協力とご賛助のお陰をもち
 まして、30年ぶりに1月より施工に掛かりました
 「西徳寺保全工事」が、7月初旬に完工する運びに
 なりました。

この度の第1次保全工事は、第1会館の外装工
 事・給排水工事を主に、門信徒皆様の利便性を
 重点に取り入れて、来賓室・会議室・寺務所改修・
 全トイレ洋式化・水舎増設など便利にご活用頂
 けますよう工事を進めてまいりました。

これ偏に仏祖の冥助はもとより、皆様方の愛寺
 護法の念と受けとめさせて頂き、有り難く深く感
 謝申し上げます。

つきましては、今回の修復事業円成に伴い下記
 の要項にて慶びと感謝のおつとめであります「落
 成慶讃法要」を勤修いたします。

この記念すべき祝賀法要に皆様お誘いの上、多
 数の方々のご参詣を西徳寺一同心よりお待ち致し
 ております。

親鸞さんのことば

不了仏智のしるしには
如来の諸智を疑惑して
罪福信じ善本を
たのめば辺地にとまるなり
『正像末和讃』(『疑惑和讃』)

松井憲一

人はみな、両親をはじめとして無限の天地自然の関わりの中でのちをいただいで、同じ日が一日もなく生かされています。ところが、わたしたちは、生きているのは当たり前だと思っっていますから、他ののちを犠牲にしても、自分の力をあてにしてより元気により楽しく生きようとしてきました。そのような生活は、仏さまの前で手を合わせるときにもあって、駄目元と知りながらも期待する心、仏智を疑う心が深く沈潜してきます。

このご和讃は、『疑惑和讃』の第一首目です。親鸞聖人は、「不了仏智」の生き方は、人間として生かされているいのちの大地である仏智を見

失うことになるといわれます。そして「不了仏智」の「しるし」には、「如来の諸智を疑惑して」と、仏さまの智慧・諸々の徳を疑うことになるといわれます。仏智の徳は、「仏智・不思議智・不可称智・大乘広智・無等無倫最上勝智」(『大無量寿経』)の五つであるといわれます。

初めの「仏智」は仏さまの智慧、「不思議智」は善し悪しのはからいを超えた智慧です。「不可称智」は、凡夫ではどういふものかとはかることのできない智慧です。「大乘広智」の「大乘」は、大きな乗り物で、すべての人を一人残らず平等に救いとるという限りない「広智」・広い智慧で、あらゆる人々を救う広大な智慧を表します。しかし、われらは、自分だけは特別席に乗せてほしいという思いがありますから、意見の合わない人や少しの努力もしないぐうたらな人と一緒では面白くないというところもおこります。だから大乘は、凡夫だけでなく、清く正しく努力する人でも大乘という大きな乗り物としての広大な智慧を、そのままいただくことは難しいのでありましょう。

最後の「無等無倫最上勝智」は、等しいもの、並ぶもののない最上

の勝れた智慧ですから、われらの高さや強さを争っている愚かな姿を徹底してあぶりだします。だから、このような如来の智慧の諸々の徳を疑惑(信用せず、自分の思いで惑っている)するものは、結局「罪福信じ善本をたのむ」人であるといわれます。

「罪福信じ」とは、悪いことをすれば苦しい結果になり、よいことをすれば楽しい結果がくると思っているで、罪をおそれ福をたのむところをたのむところが仏智に照らされて破られない限り「手術前 正信偈 術後週刊誌」というような、生活の繰り返しは止むことがありません。いずれも自分のはからいを正当化して、自分の意志で悪いことは止められる善いことはできると、仏智を信じないで自分の力を信じているだけなのです。

「善本をたのむ」とは、「南無阿弥陀仏」と、お念仏することを自分の積むことのできる善根功德と思つて、称えることを手柄にするお念仏のことです。称えることを手柄に念仏する人は、自分の幸福や不幸に執られて仏さまの智慧に出遇えませぬから、阿弥陀仏の願いの

大地に立つことができませぬ。それで、「辺地にとまるなり」と、浄土の片ほとりにしか住めないといわれます。

この『疑惑和讃』二十三首の最後の結びには「仏不思議の弥陀の御ちかいをうたがうつみとがを、しらせんとあらわせるなり」といわれます。辺地は、真実の報土(浄土)に対し方便の化土をあらわします。聖人は、仏智に翻された感動もなく、仏・法・僧の三宝も見えない孤独な世界が化土であると教えて、分かったつもり自力の執心の深さを顕わにしてくださいました。



うらぼんえ
孟蘭盆会(おぼん法要)のご案内

7月13日(木)~16日(日) : 8月13日(日)~16日(水)

朝 8 : 00 (お朝時のおつとめ) お誘い合せてお参り下さい。

『ほろほると 鳴く山鳥の 声聞けば 父かとぞおもふ 母かとぞおもふ』(行基菩薩)

今年も、なつかしいお盆を迎える時季になりました。

お盆は、正しくは「孟蘭盆会」といい、「仏説孟蘭盆経」に説かれた物語に基づく仏事です。目連尊者(釈尊十大弟子の一人)を「神通力第一」に育て上げられた母を想う余り、亡きあと母はどこにおられるのか神通力で探し求めた挙げ句の果て、餓鬼道(三悪道の一つ 地獄・餓鬼・畜生)に堕ち苦しんでいる母の姿がありました。母を救いたいとお釈迦様に救いを請うたところ「7月15日にインド中の僧侶を招き、飲食しお経を読誦する事」をすすめられました。供養の法会を営み目連尊者の母は、浄土に往生されたという故事によるものです。

当然のことながら、亡き祖父母・父母・兄弟・姉妹・子供・孫・一族縁者への想いは、何年たっても忘れることは出来ません。

『ほろほると 鳴く山鳥の 声聞けば 父かとぞおもふ 母かとぞおもふ』(行基菩薩)

行基菩薩は、一切の生きとし生けるものの中に実感として、父や母の姿を見いだしておられます。真宗では、この法要を「歡喜会」と呼びます。お盆のいわれに因んで先祖(親鸞聖人は諸仏と呼ばれました)をうやまい、しのび、訪い、阿弥陀様の国(浄土・極楽)に還られた亡き人がよるこばれたお念仏の教えを、聞法させていただき日として大切にお迎えしたいものです。

私がお念仏に出会えたのも、先立たれた方々が「仏法聞けよ、おかげさまの生活をしてくれよ」と命を懸けて願われたからであり、その大きなご縁に気づき、飲みたいものです。他宗派では、「先祖供養」「追善回向」などの考え方がありますが、真宗では、供養は「慰め」ではなく「敬い」といただき、敬いの心を形で表わすことが供養とうけとめです。

また、追善回向も亡き人に善根功德を向けようとする思いは、罪悪深重の私に出来る筈がありません。自力の計らいに他ならないからです。お盆の意義を見失わないようにして、お盆法要にお詣りし敬いの心を持ってお墓参りして、お念仏申すお盆をお迎え下さい。

山門の言葉

『あなたまかせの私』
信じる者はすくわれる・・・か？

「あなたまかせ」の語源は、「あみだまかせ」から来ていると聞かされた。

どの宗教も『信心』ということ
を最重要視し、教えの要として
説いている。

文字通り「信じるころ」の意
であるが、誰が信じるのかと問
われれば当然『私』であろう。

私とその宗教(教え)を信じる
ということ、私の勝手な思い
込みが入り一つ間違えば迷信・
狂信・盲信・邪信の危険なこと
になる。「いわしの頭も信心か
ら」「この世に神も仏もないもの
か?」「あなたは信心が足りない
から・・・」となってしまう。

ある師の言葉に「信心すれば
するほど助かりません。人は信
じて救われるのではなく、信じら
れて救われるのです」と教えら
れている。

如来様からの救いと聞かされ
ている真宗の信心は、私一人を
助けんとご苦勞される阿弥陀如
来のおはたらきに「なるほどそ
うであったか、もつたいたいこ
とです。ありがたいことです」と
きづかされることです」と頂く

のである。
さらに「信の一念」とは、「如来
の願いに気づくこと」とも教え
られている。

『邪見憍慢悪衆生』(正信偈)の
私が、疑いの心しか持ち合わせ
ていない私が、絶望の中に私一
人を救わんが為の仏がおられた
事に気づかされ、如来の無条件
の「誓い(救い)が先手で働いて
下さっている事(他力)に気づか
されたとき、初めて正信(真実の
信心)とよび、「おまかせする心」
すなわち「信心」が与えられてく
るのでしよう。

親鸞聖人は、「如来よりたまわ
りたる信心」(歎異抄)といただ
かれた。

『御勸章』には「夫、當流聖人
の御勸化はさらに別の子細もそ
うらわず、おのが智慧にも及ば
ず一心に弥陀を南無と頼み奉り
今度の浄土の往生を定めたま
いぬと、ふかく信じて、ねても
さめても称名(南無阿弥陀仏)お
こたらず申すばかり也」と説か
れている。

(脇阪 義幸 記)

第 333 号

婦人会専用口座：
名義 西徳寺婦人会
番号 10030 239 82431

～法語カレンダーに聞く～ (2017年5月)

「大信心は仏性なり 仏性すなわち如来なり」

私たちは日頃さまざまな物事、人を信じて生活している。絶対に大丈夫だと信頼して飛行機に搭乗するが、着陸した途端に「はあ、よかった」と安堵する。信じて乗ったはずなのに、安心して任せきることができないのである。

我々の心は、一度信じたことでも条件や環境が変わると、いとも簡単に信じられなくなる。本来、信じるということは私の全てを任せる、委ねることであるはずなのに、実際には自分の都合によって信じたり、信じられなかったりと非常に曖昧なものである。

親鸞聖人は『歎異抄』に、師である法然上人の仰せを信じ、念仏して地獄に堕ちることになっても後悔することはないと述べられている。自分の力を頼みにしてどれだけ努力して覚ろうとしても、自分の思い通りにならないと歩みを止める。なぜなら私たちはいつも自分の心に縛られ、人間の思想に惑いながら生きているからであり、その世界こそが地獄であると教えられる。

大信心とは、どこまでも自分よがりな私の姿に目覚めよとよびかける如来のはたらきであり、そういう生き方しかできない私に、本当にいきいきと生活できる力を与えてくださる大悲の心ではないだろうか。

(蓮井 邦宗)

次回聞法会のご案内

日時 平成 29 年 7 月 26 日 (水) 午後 1 時～ 3 時

場所 西徳寺 星月の間

法話 法語カレンダーに聞く (真宗教団連合カレンダー)

「功德の宝海みちみちて 煩惱の濁水へだてなし」

最高顧問 大谷 義博

蓮井 邦宗

ひとこと

先日、鳥越神社のお祭りに、調布に住んでいる長男夫婦が遊びに来ました。料理の支度をしている私に、お嫁さんから「妊娠四ヶ月です!」と云われ、思わず大きな声で「本当! おめでとう、おめでとう」と叫んでしまいました。

結婚八年目、私は毎日「南無阿弥陀仏」と手を合わせてお願いしていたので、感謝の気持ちで一杯です。食事の後片付けの手も軽やかでした。

(玉廣 照子)

掲示板

平成29年7月

- 1日(土) 午後3時15分 混声合唱団「エコー」練習
- 2日(日)～3日(月) 仏教青年会研修旅行
(三浦半島方面)
- 8日(土) 午後6時 同行会「現代の聖典」に聞く
法話 大谷顧問
- 13日(木)～16日(日) 孟蘭盆会
(10日よりお盆体制になり、新盆を中心にお宅にお参りさせていただきます)
- 22日(土) 午後3時15分 混声合唱団「エコー」練習
- 23日(日) 午後2時 中央ブロック会聞法会
- 25日(火) 午後7時 仏教青年会夏季ミーティング(仮)
- 26日(水) 午後1時 婦人会聞法会
- 30日(日) 午後2時 落成慶讃法要

城南ブロック会・聞法会だより

5月21日(日)2時より大井町きゅりあんにて19名の参加をもって城南ブロック会総会・聞法会が開催されました。2名の方が初参加され、他ブロックから3名の方々がご来場されました。

今回は大谷最高顧問から「死」を中心にお話を頂きました。「死はどこまでも遠ざけたいものであるが、みなさんにとって、死をもって大切な事を教え、歩む力を手渡して下さった方はいらっしゃるでしょうか?」と問いかけられました。大切な方の死と向き合うことが、自分の死に向き合うことなのかもしれないと感じました。

次回は**10月29日**
レンタルスペースFS
(三軒茶屋)で開催致します。振るってご参加下さい!
(山崎 哲 記)



城西ブロック会総会・聞法会

去る5月28日(日)中野区立商工会館にて、総会・聞法会を開催し12名の方にご参加頂きました。

総会に於きましては、昨年度の活動と新年度の行事予定等を報告し、今後の活動が円滑に進むようご審議頂きました。

今年度も会員の皆様のご協力のもと、ブロック会活動を進めて参りたいと存じますので、どうぞよろしくお願いたします。
(大橋 伊知郎 記)



編集後記

甥の仏前結婚式に出席するため、北海道の自坊へ出かけました。自坊の後継者として大勢の門信徒の方々にお披露目させていただき、本人は緊張した面持ちで出席者の皆様に感謝の言葉を述べていました。

夫婦になった二人は、これから新たな環境に船出するわけですが、支えてくださる周囲の存在を忘れずに暮らして欲しいと願いながら、我が身の生活を振りかえさせられました。
(主任 木村 記)

えこお志お礼

町田市 浄徳寺 様 横浜市 佐藤 佳子 様
中野区 小田 周太朗 様 千代田区 塚本 和子 様
北区 小山 光子 様 大田区 山上 皓一 様
ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

日誌

- 5月13日 同行会「現代の聖典」に聞く
法話 蓮井 邦宗
混声合唱団「エコー」練習
- 5月16日 責任役員会・総代会
- 5月17日 婦人会聞法会
- 5月19日 教区研修会 声明・法式指導
脇阪住職(西徳寺)
- 5月20日 定例聞法会
- 5月21日 城南ブロック会総会・聞法会
(大井町きゅりあん・参加者19名)
- 5月23日 仏教青年会聞法会『歎異抄』に聞く
講師 宗正元 師
- 5月25日 『唯信鈔』に聞く 講師 宗正元 師
- 5月27日 混声合唱団「エコー」練習
- 5月27日・28日 宗祖忌
- 5月28日 城西ブロック会総会・聞法会
(中野商工会館・参加者12名)
- 6月7日 責任役員会
- 6月7日・8日 中興忌



西徳寺ホームページアドレス:

<http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。
(メールでも結構です)

saitokuji@ce.wakwak.com